

平成30年7月  
発災から、復旧活動までに行  
った活動の記録。

一刻もはややく。

# 被災状況を迅速に把握 あらゆる手段で

中国地方整備局では7月8日より**防災ヘリコプター**で被害の全容を把握。  
また、ドローンによる詳細な被災状況や、小型カメラと衛星通信装置による**リアルタイム映像**により、刻一刻と変化する被災地の状況を迅速に把握し、求められる対応に対して**先手の判断**を行った。



衛星通信装置(Ku-SAT II)  
によるリアルタイム監視



ドローンによる被害状況把握



衛星通信車による  
リアルタイム監視

# 全国からの TEC-FORCE活動

平成30年7月豪雨におけるTEC-FORCE派遣隊員数は6,163人・日（7月5日～9月21日）。  
これは、東日本大震災（18,115人）・熊本地震（10,912人）に次ぐ第3位の規模となった。

**被災地の早期復旧のため  
技術的な支援を円滑かつ迅速に実施**



【広島県 芦田川】被災状況調査



【広島県 呉市吉浦】砂防調査



【広島県竹原市新庄町】  
被災状況調査(7月9日)

# 24時間体制の緊急排水作業

## 排水ポンプ車集中配備

岡山県倉敷市真備町に、7月7日の浸水被害発生当日に全国の整備局から**排水ポンプ車**を集結させた。

7月8日より排水ポンプ車23台により**24時間体制**で排水を開始し、発災から4日後の7月11日に排水作業が完了。

排水ポンプ車による排水量は**約70万 $m^3$** 。これは25mプール約2,000杯分に相当。



【岡山県倉敷市真備町】  
全国から集まった排水作業チームが  
排水計画を練り実行



# 復旧の道を確保せよ 真備生活道路啓開チーム結成

堤防決壊後の浸水エリア内には、放置車両や、河川から流れ込んだ**大量の土砂**が道路上に残った。  
中国地方整備局では、発災後2日目の7月9日に『TEC-FORCE: 真備生活道路啓開チーム』を結成し、緊急排水作業が完了した区域から**生活道路の啓開**に着手し、7月15日に幹線道路の土砂撤去を完了させた。

**復旧・支援車両をいち早く被災地へ  
浸水エリアの土砂・放置車両を速やかに撤去**

